プレス等発表資料８月２６日（月）午後４時30分～

●平成２５年度南三陸町地震・津波防災訓練について

昨年度に続き，我が国の防災の日であります９月１日日曜日，午前７時からの１時間，全町を対象として，平成２５年度南三陸町地震・津波防災訓練等を実施いたします。

町ではチリ地震津波以来，５月２４日に全町挙げての地震・津波防災訓練を実施するなど，ハード・ソフト両面にわたり，災害に強いまちづくりを進めてきました。

しかしながら，東日本大震災では多くの尊い人命，財産を一瞬にして失い，甚大な被害を受けました。

災害発生時において，「命を守る」ことを最優先とした意識・行動を再確認し，また，町をはじめとした防災関係機関の初動体制の確立に向けて，本訓練を実施いたします。

今年度の訓練につきましては，住民の方々の安全でより高い場所への避難，地域内における安否の確認といったいわゆる地震・津波発生時における初動について，改めて再確認を図ることを目的としております。

また，防災関係機関の浸水域からの退避訓練等を新たに実施することとしております。

訓練終了時刻であります午前８時には，東日本大震災をはじめとし，これまでの数多くの災害において犠牲となられた多くの方々に，慎んで，哀悼の意を表（ひょう）するため，一斉サイレンを吹鳴（すいめい）し，黙祷を行うものであります。

以上申し上げましたとおり，それぞれの地域における現状に照らした基本的な訓練の実施をお願いしているところでありますが，関係機関皆様におかれましても，御理解と御協力を賜りますよう，よろしくお願い申し上げます。

●復興計画推進会議について

「南三陸町震災復興計画」は，平成23年12月に，新しいまちづくりの指針として策定され，現在，町では，この計画に沿って，まちづくりを進めています。

今回，９月１７日に発足する「南三陸町震災復興計画推進会議」は，20年後，30年後の南三陸町を考え，復興計画の進捗状況や未来のあるべき姿について意見を交わし，必要に応じて，町に御提案をいただく組織です。

　委員は全員で２１名の方にお願いしております。

委員は，まちづくり協議会等の各団体から，これからのまちづくりの中心を担う方を推薦していただいております。

町民委員の平均年齢は４４歳で，まさに，責任をもって，まちづくりの中核になられる方々です。

また，委員が男性にかたよらないように，推薦に当たっては，各団体に御配慮いただきました。

その結果，女性の割合は，３３．３％となり，女性の意見を復興計画に十分に反映させていきたいと考えております。

学識・有識者は４名の方々にお願いしております。

１人目は，宮城大学事業構想学部宮原育子（みやはら　いくこ）教授です。宮原教授は，震災後に，南三陸町に入られ，語り部ガイド等の育成に御尽力いただきました。

２人目は，東北大学災害科学国際研究所平野勝也（ひらの　かつや）准教授です。平野准教授は，震災復興計画策定会議に委員として参加され，厳しい本音の御意見を出され，本町の「復興計画」策定に御尽力いただきました。

３人目は，宮城県観光連盟三浦均（みうら　ひとし）参与兼事務局長です。三浦事務局長は，元JTB東北の社員で，郡山支店長，法人営業仙台支店長を歴任されました。今後，町の活性化にとって，重要な産業である観光に対して，御助言及び御協力をいただきたいと考えております。

最後の４人目は，株式会社ゆいネット及び株式会社たびむすび代表取締役稲葉雅子（いなば　まさこ）さんです。仙台で，IT企業を立ち上げ，さらには，企業として，各地の地域づくりを応援しております。

また，働く女性のために，「アクタレイア」という無料の雑誌を毎月発行されており，仙台の若いOLの方々から，高く支持されております。行動力と広い人脈を持っておられる方で，南三陸町の復興に，大きな力を貸してくださると考えております。

４名の学識・有識者の方々は，専門的見地から御助言をいただけるだけではなく，町民委員とともに，一緒に，まちづくりの行動を起こせる方々に委員就任をお願いしております。

本町の復興計画推進会議は，日常的で身近な話題から議論を始め，復興やまちづくりの目指す姿，そして，本町が大切にしていきたい地域資源や文化を明らかにしながら，その意見を震災復興計画に反映していきます。

そして，復興に向けて，町民自らが行動するための「きっかけ」を作っていきたいと考えております。

開催につきましては，毎月１回程度を予定しております。

テーマにつきましては，この会議の発足前から，各委員にレポートの提出を求めており，その中から設定していきたいと考えております。御提出いただいたレポートには，人口減少，教育・医療・福祉のサービス低下，観光客の減少，復興事業の遅れ，農林水産業及び商工業の再生等に対して，不安や課題があるとされており，それらに対して，今後，会議において，御意見をいただきたいと考えております。

●被災住宅再建支援事業補助金（独自支援）制度の受付

について

被災住宅再建支援事業補助金（独自支援）制度については，前回及び前々回の定例記者会見でお話しさせていただきました。

今月１６日から，補助申請に向けた相談日時の予約を受け付けております。

詳しくは，８月１６日発行の復興まちづくりニュース臨時号又は町ホームページをご覧いただくとともに，担当の復興事業推進課までお問い合わせ願います。

　この事業は，平成３２年度末までに住宅を再建された方を対象とするものであり，来月以降も，継続的に相談・申請受付を実施してまいります。

●災害公営住宅の入居に係る仮申込みの状況について

町では，来年の夏以降に，順次，入谷，名足地区等の災害公営住宅の入居が始まることから，円滑に御入居なさっていただくため，９月９日（月）までに，全地区を対象とする災害公営住宅入居に係る仮申込の手続を町民の方々にお願いしております。

その案内につきましては，昨年７月実施の意向調査で災害公営住宅への入居を御希望された方等へ，７月２６日から郵送しております。８月２３日現在で，３４１世帯の仮申込がございました。

なお，今回の入居仮申込みは，災害公営住宅の整備戸数を確定していく上でも，必要な手続となりますので，災害公営住宅への入居を御希望の方で，入居仮申込書を提出されていない方は，９月９日（月）までに，御提出をお願いたします。

御不明の点がございましたら，復興事業推進課まで御相談願います。

●森林保全クレジットの購入に係る贈呈式について

町の森林保全活動に向けた支援として，株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモは，「フォレストック認定制度」を通じて，町がフォレストック認定を受けている町有林のCO2吸収量クレジットを購入しています。

９月５日午後４時からの贈呈式では，４００ｔのCO2吸収量クレジット（４２０万円相当）が，株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモから町に贈られます。

株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモからは，東北支社支社長とゆるキャラの「ドコモダケ」が出席されます。

ドコモでは，町の森林資源である間伐材をスマートフォンの置き台のようなアクセサリー商品などへ加工し，「dショッピングTM」を通じ，森林保全に共感いただけるお客様にご購入いただくことで，商品の売上の一部を翌年以降のCO2吸収クレジット購入に還元するといった「お客様参加型」の森林保全活動の仕組みを行っております。

町では，CO2吸収量クレジットをもとに，森林の保全と適正管理に資する事業を展開していく予定です。

●平成２５年度南三陸町敬老会の開催について

多年にわたり地域社会の進展に寄与されたことに対し，敬意を表すとともに，高齢者の健康と福祉の増進を図ることを目的に開催いたします。

参加者の中には，仮設住宅に住むようになって，普段，なかなか会えずにいる友人と会うことを楽しみしている方もいらっしゃるようです。

志津川地区は９月２５日（水），歌津地区は９月２６日（木），戸倉地区・入谷地区は９月２７日（金）に開催いたします。

いずれも，開始時間は午前１１時３０分。会場は南三陸ホテル観洋となります。

対象者は，平成２５年度末時点で数え７７歳以上の方（昭和１３年４月１日以前生まれ）となります。町には，平成２５年７月３１日現在で，２，５５８名の方がおります。

当日は，会食や文化団体，ボランティア等の慰安演芸等が行われる予定となっております。